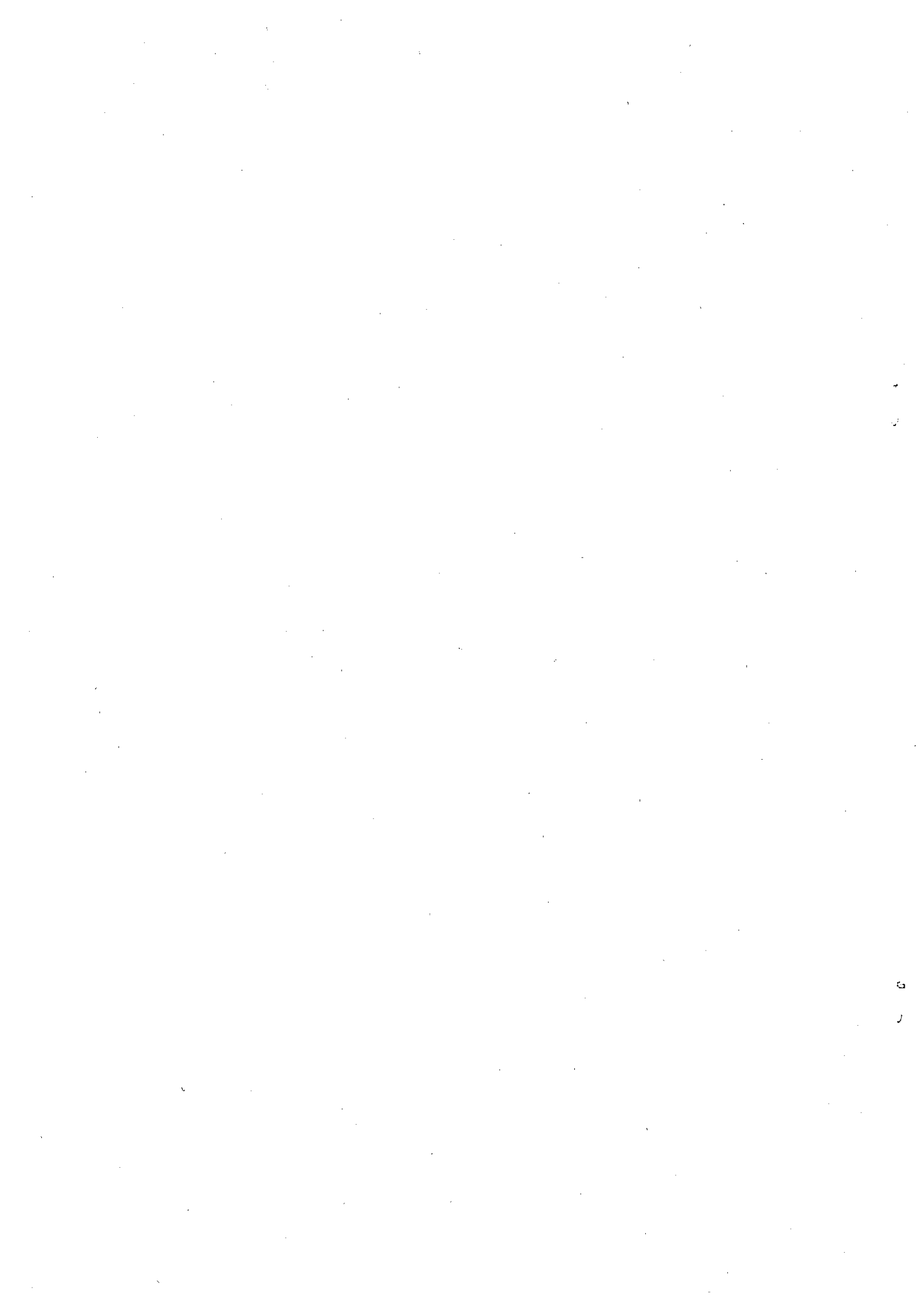


地域振興県土警察常任委員会資料

(平成27年6月8日)

- 1 「とっとり移住フェア」の開催結果について
【とっとり暮らし支援課】・・・1ページ
- 2 IJUターン4千人・とっとり暮らし推進チーム 第1回会議の開催結果について
【とっとり暮らし支援課】・・・3ページ
- 3 魅力あふれる中山間地域・まちなかづくりチーム 第1回会議の開催結果について
【とっとり暮らし支援課】・・・4ページ
- 4 「イクボスとっとり共同宣言」署名式の実施について
【男女共同参画推進課】・・・5ページ

地 域 振 興 部



「とっとり移住フェア」の開催結果について

平成27年6月8日
とっとり暮らし支援課

首都圏の子育て世代など若い世代に鳥取の良さをPRし、鳥取への移住を考えるきっかけとしてもらうため、総務省が3月にオープンした移住・交流情報ガーデンで、「とっとり移住フェア」を下記のとおり開催しました。

石破大臣、平井知事も参加されたトークイベントには、子ども連れの夫婦など20才代から30才代を中心に約70名が来場し、参加者アンケートでは8割の方から、鳥取県への興味や移住への気持ちが「強くなった」又は「少し強くなった」と回答がありました。

今後は、フェアへの来場者に対して、移住相談員によるフォローアップを行い、本県への移住の促進を図ります。

記

- 1 日時 平成27年5月24日（日） 午前10時から午後5時30分まで
- 2 場所 移住・交流情報ガーデン（東京都中央区京橋1丁目1-6 越前屋ビル1階）
- 3 来場者数 約70名
（参考）参加者属性 【男女比】男性：約60%、女性：約40%、【年齢】20代：約50%、30代：約30%
- 4 内容
 - 午前10時～
特産品の物販、パネル展示（森のようちえん等）、動画放映（移住者等が出演）、移住・就職相談
 - 午後1時～
石破大臣による移住相談ブースでの移住相談体験
 - 午後1時45分～（午後5時30分終了）
パネルディスカッション（石破大臣、平井知事、ゲストスピーカー）
参加者によるワークショップ（グループでの自己紹介、ゲストスピーカーを囲んでの情報交換）

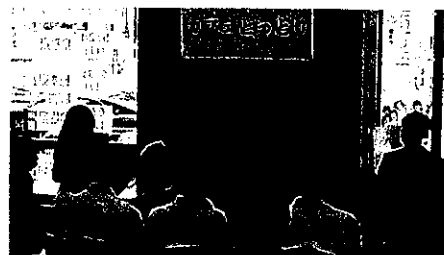
<ゲストスピーカー>

- ・平賀 謙太（ひらが けんた）氏
：岡山県出身、八頭町在住。元八頭町地域おこし協力隊。獣害対策や農産物生産などによる地域の活性化活動を行うほか、移住支援組織の立ち上げにも取り組む。
- ・上野 俊彦（うえの としひこ）氏
：兵庫県出身、智頭町在住。群馬県から移住。㈱八十八やを経営。栽培者免許を取得し、産業用大麻の栽培、啓発に努める。
- ・西村 早栄子（にしむら さえこ）氏
：東京都出身、智頭町在住。森のようちえん「まるたんぼう」を運営。平成26年度には「新田（しんでん）サドベリースクール」を開校するなど、子育て支援に取り組む。

(1) パネルディスカッションの概要

○石破大臣

- ・都会に食べ物や人材を供給しているのは地方だが、地方の人材は不足しており、地方が疲弊すると日本が消滅するということにもつながる。
- ・これからは、地方のことは地方で考え、時代を変えていくのは地方から。
- ・鳥取県に移住者を呼び込み、日本中のみならず、世界に売り出していきたい。



○平井知事

- ・起業ということもあるが、東日本大震災以降、リスク分散のための県内への企業誘致も進んでおり、雇用の場もある。
- ・ゲストスピーカーのような若い人たちの活躍のフィールドもたくさんあるので、まずは実際に来て見てほしい。

○ゲストスピーカー

- ・鳥取は近所の人たちとの距離が近く、まわりの人たちがみんな子どもを見守ってくれていると感じる。
- ・鳥取の人は、謙虚で最初からアピールすることは少ないが、本当に地元のことが大好き。
- ・何かをするときには仲間が必要だが、鳥取には一緒に何かをする仲間恵まれている。等

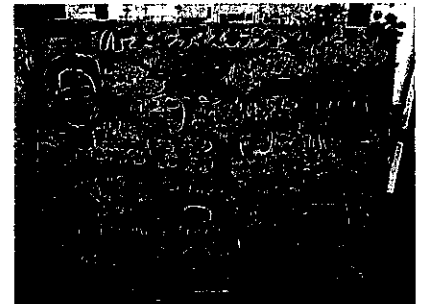
(2) ワークショップの概要

いくつかのグループに分かれ、参加者同士の自己紹介、ゲストスピーカーを囲んでの「質問タイム」を行った。

参加者それぞれがゲストスピーカーに質問し、とっとり暮らしの実践における生の話に真剣に耳を傾けていた。

【参加者の声（ワークショップでのやりとりから）】

- ・ 本気度が高い人の参加があり、中には、鳥取県に移住することを前向きに検討しており、既に何度も鳥取県を訪れている人もあった。
- ・ パネルディスカッションや、ゲストから直接話を聞くことができ、鳥取でのリアルな生活を知ることができた。
- ・ 森のようちえんなど、鳥取県での子育て環境の話が聞けて良かった。
- ・ 移住すると給料は減るが、生活するための費用も減ると聞きおどろいた。
- ・ 移住者の受入れに頑張っている地域団体があると聞き、そのような団体や地域の人とのつながりが大切なことだと思った。そんな地域に移住したい。
- ・ まずは今日の話を家族にしてみたい。
- ・ 鳥取県のことをもっと知り、地域の課題解決など、自分ができることにチャレンジしたい。
- ・ 今日の話聞いて、鳥取県に興味を持った。
考えるのは後にして、まずは鳥取県に足を運んでみたい。



【参加者アンケート結果（抜粋）】

鳥取県への興味や移住への気持ちは「強くなった」	14名/41名（約34%）
鳥取県への興味や移住への気持ちは「少し強くなった」	19名/41名（約46%）

I J Uターン4千人・とっとり暮らし推進チーム 第1回会議の開催結果について

平成27年6月8日
とっとり暮らし支援課

I J Uターン4000人により、県内で必要とされる人材の充足を目指すため、とっとり元気づくり推進本部に設置された「I J Uターン4千人・とっとり暮らし推進チーム」第1回会議を次のとおり開催しました。

- 1 日 時 5月29日(金) 午前9時30分から10時30分まで
- 2 場 所 県庁第4応接室
- 3 出席者 副知事(チーム長)、関係部局長(未来づくり推進局、地域振興部、福祉保健部、
商工労働部、農林水産部)、県外本部長、総合事務所長等
- 4 議 題 (1) 各部局における取組の方向性、概要について
(2) 今後部局横断的に取り組む事項について

5 会議の概要

県内で必要とされる人材の充足に向けて、関係機関が連携して以下のような取組を重点的に進めていくことを確認した。

- ・移住を検討している方に対するアプローチの強化
「なぜ鳥取県なのか」日本一小さな県であることを強みとした情報発信
「いい所を目指したら鳥取県だった」といった従来とは逆転の発想での情報発信
- ・魅力ある産業の存在を踏まえたUターンの強化(県外・県内両面の発信強化)
- ・創業・事業承継を担う人材の確保
- ・空き家の掘り起こし策、シェアハウスなど住まいに係る新たな支援策の打ち出し
- ・情報の集約・発信について、プラットフォーム機能を充実・強化して取組を進める。

今後、「とっとり暮らし」を選んでもらうための施策について、移住者、地域組織、関係団体等外部の意見も伺いながら検討を進め、第2回会議を夏頃に開催することを予定。

6 主な意見

(1) 情報発信の強化

- ・今までのPRはゆったり暮らしの提案。県内に魅力ある産業があることを提案し、移住と仕事をパッケージで売り出すことも必要。
- ・若者による発信が若者を呼ぶ。なぜ鳥取県なのか、大都市圏の人が何を求めているのか、そこに訴える情報発信が必要。
- ・Uターンに力を入れるべき。県内の企業が親にも学生にも知られていない。県内でも発信が必要。
- ・県外出身の県内大学生を県内に留めておく視点も大切。
- ・行政が持っている情報だけでなく、民間の方々が持つ情報も併せて発信できる仕組みを考えるべき。

(2) 体制整備(受け皿づくり)の推進

- ・新たな借金なしに移住できることが大事。
- ・提供できる空き家が足りない地域もある。シェアハウスなど、住まいについての新たな策を考える必要がある。
- ・農地+作業場+住居をセットで情報提供できるようにしたい。
- ・県外PRなどは、個々の市町村ではなく圏域単位での取組も必要。
- ・創業・事業承継なども新たに盛り込んでいることを頭に置いて取組を進める。

魅力あふれる中山間地域・まちなかづくりチーム 第1回会議の開催結果について

平成 27 年 6 月 8 日

とっとり暮らし支援課

元気で魅力あふれる中山間・まちなかづくりを進めるため、「とっとり元気づくり推進本部」に設置された「魅力あふれる中山間地域・まちなかづくりチーム」について、第1回会議を次のとおり開催しました。

- 1 日 時 6月2日(火) 午前9時30分から10時40分まで
- 2 場 所 県庁第3応接室
- 3 参 集 者 統轄監(チーム長)、関係各部長(地域振興部、福祉保健部、生活環境部、農林水産部、県土整備部)、総合事務所長 等
- 4 議 題 (1) 各部局における取組の方向性、概要について
(2) 今後部局横断的に取り組む事項について

5 会議の概要

中山間地域・まちなかに蓄積された課題を解決し、過疎化の元凶となっている負の連鎖を断ち切るための対策を部局間で連携して取組むために、以下のとおり検討し、進めて行くことを確認した。

- 各担当部局で市町村、民間と意見交換しながら取組を進めて行く。
- 中山間地域対策とまちなか対策は分けて検討することとし、中山間地域では「小さな拠点」を中心に各部局間共通のモデル地区を設定するとともに、まちなかについて市や民間の動きが進んでいるところからモデル地区を設定し、目標を定めて対策に取り組む。
- 次回開催(7月予定)時に、外部委員を交えた意見交換を行い、課題に対する検討と施策化を議論する。

6 主な意見

- ・中山間地域・まちなかの両方に共通する空き家問題は、IJUターン4千人・とっとり暮らし推進チームと連携した取組が必要。
- ・中山間地域で生活を続けるための方策は、「小さな拠点」づくりを中心として、買物対策、移動対策、見守り、道路整備、防災対策、担い手育成、仕事づくり、エネルギー自給など、地域に合わせた多分野に渡った対策が必要。
- ・農業と冬期の除雪作業などを組み合わせた半農半Xも考えられる。
- ・まちなかでは、いくつかの地区で若者を中心としたにぎわいづくりの活動が始まりかけている。
- ・各部局でそれぞれ対策が立てられているが、トータルでの目標・指標が必要ではないか。

「イクボスとっとり共同宣言」署名式の実施について

平成27年6月8日
男女共同参画推進課
人事企画課
子育て応援課

部下の仕事と家庭の両立を応援し、自らもワーク・ライフ・バランスを実践する働き方改革を進めるため、全国で初めて、経済団体、労働団体、行政のトップが一堂に会してイクボス宣言を行いました。
今後イクボスの取組を県内に広げていきます。

1 署名式の開催

- (1) 日時 平成27年6月3日(水) 11時45分から12時15分まで
- (2) 場所 知事公邸第1応接室
- (3) 参加者
 - 経済団体 鳥取県商工会議所連合会副会長 倉都 祥行
鳥取県経営者協会会長 宮崎 正彦
鳥取県中小企業団体中央会長 谷口 謙二
鳥取県商工会連合会会長 井木 久博
 - 労働団体 日本労働組合総連合鳥取県連合会会長 五十嵐 美知義
※五十嵐会長は、署名式当日は欠席のため後日署名。
 - 行政 鳥取労働局長 河野 純伴
航空自衛隊美保基地司令代理第3輸送航空隊人事部長 半 克行
陸上自衛隊米子駐屯地司令 小見 明之
鳥取県知事 平井 伸治
鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志
鳥取県警察本部長 山岸 一生

イクボスとっとり共同宣言

私は、長時間労働の削減、柔軟な働き方の推進などの働き方改革を通じて、部下の仕事と家庭の両立を応援する「イクボス」となります。

また、自らも鳥取の豊かな自然に親しみ、家族や地域を大切にするワーク・ライフ・バランスの実践者として、人生を思いっきり楽しみます。

県内各地の企業や団体に「イクボス」を増やし、その取組を広げ、男女がともに働きやすい鳥取県を目指し、全力で取り組みます。

2 今後の取組

- (1) 民間企業に向けた取組
 - ・輝く女性活躍加速化とっとり会議において、イクボス研修等により県内企業のトップにイクボスの浸透を図る。
 - ・企業への奨励金等を通して、引き続き男性の育児休業や育児参加休暇の取得を推進する。
- (2) 県庁における取組
 - ・管理職全員へのイクボス宣言の呼びかけ
 - ・イクボス研修の実施
 - ・育児応援チェックリストの作成
職員各自が上司として又は同僚としての育児応援ぶりを自己診断。意識啓発を図る。
 - ・育休プランニングシートによる面談・助言
所属長が出生予定のある職員と育休取得予定等が記載されたシートをもとに話し合い、仕事や育児支援制度の利用等について助言
 - ・イクボスの積極的な取組の人事評価への反映(加点要素)及び表彰を検討

